

『しゃぶり鬼』

声の出演：分倍河原シホ

シナリオ：ツヅル

イラスト：小夏チハ

制作：オーガソフト

【0 昔噺】

これはこの村に伝わる、古い古い伝承——。

この村では昔から、人喰い鬼を祀り、鎮める習わしがあります。

鬼は普段、社の中で大人しくしておりますが、年に一度だけ人里に降りてきました。

村人もその日だけは祭りを開き、盛大に盛り上がります。

ですが一つだけ、鬼に捧げなくてはならないものがありました。

それは村の若い男衆の中から一人だけ、生贄を捧げるというものです。

その日生贄は隅々まで身体を清め、人里離れた『鬼の家』と呼ばれる社の中に、一人で寝かされます。

その後鬼が現れ、夜明けまでに『何か』をされるそうです。

何をされるのか、村人たちは誰も口にしようとはしません。

ただ生贄となった男は、翌朝帰って来ます。

生気の抜けた、フラフラとした足取りで……。

そんな村の伝承は、ただの古い言い伝えではありません。

この村には現在も、この習わしが息づいているのです。

そして今年も、祭りの日がやってきました。

若い男衆から選ばれた青年が一人、『鬼の家』へとやってきたのです。

【1 出現】

ねえ、起きて……ねえ……。

……ふふっ、気がついたみたいね。

あら？ どうしたの？

もしかして私の姿に怯えている？

まさか、『人喰い鬼』が本当にいたなんて驚いた？

そういえば去年来た子も、同じように驚いていたかしら。

あの子も単なる古い言い伝えだとは思っていなかったみたい。

……でも、本当なのよ。

私が『人喰い鬼』、昔から『鬼姫』と呼ばれているわ。

ようこそ、我が鬼の家に。

貴方が今年の生贄ね？

ふふっ……中々可愛い顔をしているじゃない。

それにこの匂い、とても美味しそう。

それじゃあ早速味見をさせてもらおうかしら？

くんくん……ああ、首筋は匂いが強いわね。

どんな味がするのかしら？

んれろっ……ちゅっ、んれろっ、んちゅっ、ちゅうっ……。

ああ、なんて美味しいの……！

ふふっ、今年の生贄は随分と上物みたいね。

一年に一度だけの祭事、愉しませてもらうことにするわ……。

……あら？ どうしたの？

そんなに怯えて……怯える必要なんてないのよ。

……もしかして貴方、何か勘違いをしているんじゃない？

ふふっ、やっぱりそうみたいね。

『人喰い鬼』なんて言われているから、もしかして食べられるとでも思ってる？

大丈夫よ、安心して。

そんな野蛮なことなんてしないから。

私が食べるのは貴方の身体じゃなく、貴方の精。

若い男の精力こそ、何よりのご馳走なんだから。

昔はきちんと村にも伝わっていたみたいだけど、最近では曲解されているみたいね。

残念なことだけど……ふふっ、こうやって怯える様子を見るのも悪くはないわ。

だけどころやって身体を強ばらせているのもよくないわね。

身体がほぐれた状態でなければ、良質な精液は搾り出せないんだから。

いいわ、怯えさせてしまったのも私のせいだから、その緊張をほぐしてあげる。

ほら、身体から力を抜いて横になって？

……そう、その調子よ。

何も心配せずに、私に身を任せておけばそれでいいわ。

貴方のこともきっと、気持ちよくしてあげるから……。

それじゃあさっきの続き、いいかしら？

また首筋を舐めてあげる……私の舌、感じて？

んれろっ、ちゅっ、んちゅっ、ちゅるっ、ちゅう……。

はむっ、んちゅっ、ちゅうっ、ちゅっ、んれろちゅうっ。

温かいでしょう？

鬼でも身体づくりは貴方たち人間と同じなのよ。

だからこのねっとりとした舌で舐められると気持ちいいって知ってるんだから。

んちゅっ、ちゅっ、んれろっ、ちゅっ、ちゅるるっ、ちゅうっ。

ほら、段々と癖になってきたでしょう？

ここに唾液を絡めると、もっと気持ちよくなれるのよ。

試してみる？ んじゅっっ…じゅるるっ、じゅっ、ぢゅううっ。

ぢゅるるっ、ちゅぶっ、んちゅっ、ぢゅくうっ…！

ほら？ 言った通りだったでしょう？

こうやって口と舌で愛撫してもらうのは気持ちいい？

ふふっ、気に入ってくれたみたいでよかった。

だったらもっと愛撫してあげる。

ほら、服を脱いで？

恥ずかしがっている場合じゃないわ、貴方は生贄なのよ？

人喰い鬼の言うことに従って……。

ふふっ、いい子ね。

それじゃあ引き続き、胸も舐めてあげる。

んちゅっ…んれろっ、ちゅっ、れろちゅっ、ちゅっ、んちゅう。

あら、中々いい身体つきね。

男らしい身体、嫌いじゃないわ。

んれろっ、ちゅむっ、ちゅるっ、んちゅっ、ちゅううっ、んちゅうっ。

ふふっ、胸を舐められるのも嫌いじゃないみたいね。

でも考えてみたら当然かしら、舌で舐められるのは気持ちいいもの。

だけど、ここを舐められたらどうなるかしら？

そう、乳首……女の方は反応するけど、男の方はどうなるのかしら？

自分の身体で確かめてみる？ ほら、舐めるわよ。

んっ……んれろっ、ちゅっ、はむっ、んちゅるっ、れろちゅくうっ。

舌が乳首に当たる度に、ビクビクってしてるわよ？

男の人でも、ここを舐められると気持ちがいいみたいね。

気に入ってくれたかしら？

だったらもっと強く舐めてあげる……！

んちゅっ、ちゅっ、ちゅれろっ、ちゅくうっ、んっ、んちゅうっ。

れろちゅむっ、ちゅっ、ちゅううっ、んっ、んちゅちゅうっ。

ふふっ……どうしたの？

さっきから女の子みたいな声が出てるわよ？

そんなに気持ちよくなってくれたのね。

私もとっても嬉しいわ。

だってそれだけ緊張がほぐれたってことでしょう？

……ふふっ、ほら図星みたい。

これで安心してくれたかしら？

私が人畜無害な鬼だってこと。

最初にも言った通り、貴方に危害を加えることはないわ。

それに……貴方のことすごく好みなもの。

だから貴方の嫌がることなんて絶対にしないわ。

本当だったらこのまま口淫して精液を搾り出して終わりなんだけれど……。

もし貴方が嫌でなければ、もっと興奮するようなことしてあげるんだけどどうかしら？

拒否しないってことは、受け入れてくれたって事でいいのかしら？

ふふっ……だったら口吸いをしてあげる。

私の舌使い、きっと気に入ってもらえると思うの。

ほら、舌を出して……？

【各シナリオ抜粋】

【2 口吸い】

いいわ……今度は唇を甘噛みしてあげる……あむっ、はむっ、んむっ。
んむっ、はむちゅうっ、んっ、んはむっ、んっ、あむはむっ。
唇、とっても柔らかい……！
いつまでも甘噛みしていたくなるくらいだわ。

【3 玉転がし】

こんなにパンパンに膨らんで……んちゅっ、ちゅうううっ……！
ん……じゅぽんっ！ ちゅぽんっ！ ちゅうっ、じゅぽんっ！
吸い付くだけでそんな声出して……ふふっ、可愛いわ。
気持ちよさで耐えられなくなったその可愛い声、もっと聞かせて？
玉袋がふやけるくらい、私の舌でしゃぶってあげる……。

【4 尺八】

私の喉の奥深くまで、ゆっくりと挿入していいの。
全部受け止めてあげるから……。
んっ……んぐっ……んっ、んんう……。
んぐっ……がぼっ……がぼっ、がぼっ、がぼっ、がぼっ。
んっ、んぶっ、ぶっ、じゅぶっ、んぶっ、んんっ、んぐぶっ。
おごっ、んっ、んぶぐっ、んっ、んごぼっ、おっ、んおおっ。
んうはあっ……はあ……はあ……はあ……。

【5 目合い（まぐわい）】

そうよ……私も感じてる……んんっ……気持ちよくなってる……！

貴方の竿で……ガチガチに勃起した竿で刺激されて……あっ、んんう……！

いけない……？

鬼が、人間の竿で気持ちよくなつては……んっ、ああっ……。

私は鬼だけど……その前に一人の女……。

女に生まれた以上、こうやって男を欲するのは当たり前のことなんだから……っ。

んんうっ……それにしても、貴方の竿……すごく気持ちがいい……っ。

こんなに感じたこと……ないのに……あっ、んああっ、あっ、んんうっ……！

【6 男潮】

ふふっ、女の子みたいな声を出してるわよ？

さっきした時はあんなに気持ちよさそうな顔だったのに……んちゅっ、ちゅむっ。

んれろれろれろれろっ……ちゅむっ、ぢゅるるっ、ちゅむっ、じゅぶうっっ……！

やっぱり刺激が強すぎる？

【7 御馳走様】

私は朝まで、貴方の寝顔を見ているわ。

好きなのよ、こうやって見守っているの。

なんだか心が落ち着くというか、優しい気持ちになれるの。

……なんて、人喰い鬼には似合わないセリフだったかしら？

【E X 1 再会】

……あら？

懐かしい顔……どこかで見たことがあるわね。

さて、誰だったかしら……ふふっ、なんてね。

貴方のこと忘れるわけがないじゃない。

あの日から1年……もうそんなに時間が経ってしまったのね。

【E X 2 シナリオ抜粋】

【E X 2 花嫁】

今宵貴方がお越しになるのを、お待ちしております。

……っ、ふっ、うふふふっ、驚いたかしら？

こんな風に貴方を出迎えたのは初めてだったわね。

貴方が面食らうのも仕方が無いこと。

それにしても、驚き過ぎね。

もしかして貴方が一番驚いたのは、この白無垢に対してかしら？

……こんな戯れも許されるわよね。今夜だけなんだから。

ん……、……んっ……。

もう一度、んっ、……もう一回、ん……もっと……。

そろそろ出してくて仕方が無いみたいね。

このまま喉でしごいて上げてもいいけど、どうせなら口の中を出して欲しいわ。

そうしないと、あなたの精液を味わえないでしょ？

あ…むっ、……んう……ん、んんっ、んうんう……んむ…んれっ。

好きな時に出していいわ。

……分かってるわ、動いて欲しいんでしょう？

だけど気持ち良すぎてゆっくり動くことしかできないわ。

それでも良い？

分かったわ……。

んうっ……んっ、んあぁっ……はぁっ……あぁっ、はぁっ……。

中で擦れて……うう、くう……。

一番敏感な場所に当たってるわ……はぁん、う、んっ。

……私の中、貴方のおちんちんの形を覚えてるみたい……。

もし、貴方が来年も、また次の年も、その次も、

同じように生け贄として来てくれるのであれば、

少しずつその望みを叶えてみたいと、そう思うの。

貴方も同じように、望んでくれるなら……。

私の望みを叶えてくれる？

……本当に良いの？

ふふっ、嬉しいわ。

だったら、今夜少しだけ、私の望みを叶えてくれる？